



新工場は本社横の従業員専用駐車場だった場所に新設。鉄骨平屋建てで417・66㎡。最新のマ

シニングセンタを導入し、総工費は約3億円。同社は「ぶつちぎりの超短納期」をモットーに、機械部品の製造を手

金属加工を手掛ける(株)内海機械(鶉飼町)は、同社横に新工場を完成させ、25日落成式を執り行った。新工場により幅広く高精度な金属加工を実現する。

「ぶつちぎりの超短納期」を強化！ 鶉飼町・内海機械の新工場完成

シニングセンタを導入し、総工費は約3億円。同社は「ぶつちぎりの超短納期」をモットーに、機械部品の製造を手掛け、単品からの注文も受注、最短で即日納品を行うなど、地元を含め企業の困り事に迅速に対応している。しかし、これまでは金属に穴をあけたり、厚みを削ったりするマシンニングセンタと呼ばれる金属加工機械が、1mまでの製品にしか対応しておらず、大きな部品の受注が難しかった。

そこで今回新工場に導入したのが、2mまでの金属部品加工ができる最新の機械。穴あけや削り以外にも、細かな彫りなどにも対応できるもので、高い精度を維持したまま大型部品にも対応できるようにになった。さらにサイズによっては最大8個の部品を同時に加工することもできる。この新機械の導入で、水力発電機の軸などの大型のグリーンエネルギー関連部品にも取り組めるようになった。

25日の落成式には来賓や関係者など約40人が出席。新たなマシンニングセンタの除幕式も執り行い、関係者らと門出を祝った。



「今日から新しいステーション」

また内海和浩社長は「ジを歩んでいく。かねてから大型部品の要望も多く、今回の新工場に至った。早さが求められる地域の成長企業のニーズに応え、そうした企業のブラスター役になれることを願っている」と期待感を話していた。

の技術と努力も不可欠。ひとつひとつの製品に技術と誇りを込めたい。また見学に来てもらい、他の模範となるような工場に育てていきたい」と決意を。